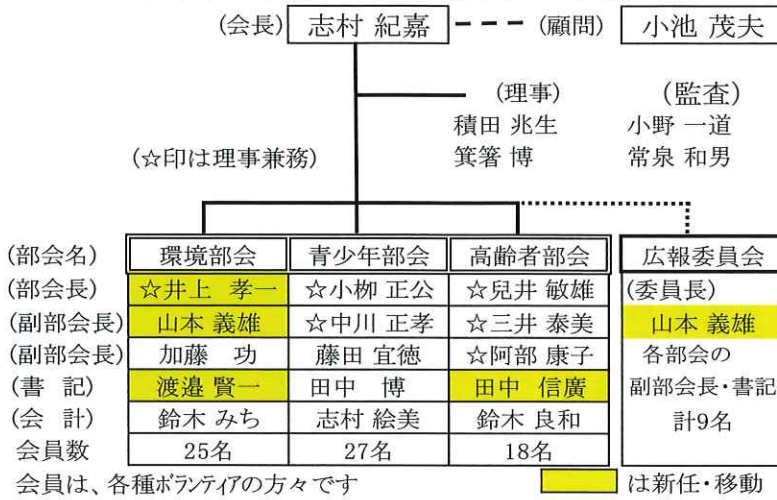




小域福祉ネット  
**牛久**

第 26 号  
令和3年2月  
発行  
牛久小学校区  
小域福祉ネットワーク  
広報委員会  
2月・8月発行  
発行責任者  
志村 紀嘉

○ 令和2年度 小域福祉ネット牛久の組織図 ○



令和二年は、新型コロナウィルスで始まり、昨年末には、一日で東京都では千三百三十余人、千葉県で二百五十余人の感染者数の記録更新が出た。感染者増加により医療体制は崩壊寸前といわれている。コロナ禍の中、各地域では、各種イベント・行事等は中止されたものも多い。

**コロナ禍での小域福祉ネットワークの活動**

我が小域福祉ネットワークは、行政の指導もあり感染者増減の推移を見守りながら感染対策をたてた。

年内の活動計画は、環境部会、高齢者部会、青少年部会のそれぞれで実践するがコロナウィルスの影響で活動を取り止めた計画もあった。

例会（奇数月開催会議）・総会は開催できず、例会が遅くなったが十一月に南総公民館で開かれた。

高齢者部会の茶話会は、参加者は入室前に検温・手の消毒・マスクの着用で感染対策を万全に行い異常のない方が参加の許可がされた。

参加人数の多い会場は、午前・午後と二回に分かれて開かれた。（九月、十月、十二月の三回）

小域福祉ネットワーク全体で行っている「安心生活見守り支援事業」は各人が感染防止に細心の注意を払い行っていた。福祉活動は主に対人関係であり、予定通りに進まなかった。例年と違い気遣い・苦勞も多く、ここまで何事もなく実践されたことに感謝申し上げます。

さて、我が小域福祉ネットワークは発足して十四年になった。これまでと同様に環境部会、高齢者部会、青少年部会の三部会と全体で取り組む「安心生活見守り支援事業」の四本柱の体制がある。各部会員の大半は高齢者が多く、コロナ感染に充分注意して取り組んでほしい。

少子高齢化・社会構造の変化は更に進み課題・問題が出て来る、コロナ禍の状態を見ながら会員相互の協力・団結が必要となる。



牛久小学校区  
小域福祉ネットワーク  
会長 志村 紀嘉

今年度の総会で環境部会長として仲間入りさせていただきました。牛久地区町会長の井上です。

今後は、新型コロナウィルス禍により、活動ができない状態が続いておりますが、これまでの取り組み方針を参考に他の部会の方々と連携しながら協力して環境部会の仕事を理解し、地域の皆様方からのご意見・ご希望をお伺いし、生活環境の改善を目指して、牛久地区のお役に立てるよう努力活動してまいります。

よろしくお願いたします。



環境部会  
新部会長  
井上 孝一

▼新部会長に今後の抱負を伺いました



# 福祉ネット牛久



(丸山神社の本宮)



(丸山公園山頂から牛久小を望む)

① 丸山公園遺跡  
 弥生、古墳時代の遺跡で天王原の石奈坂遺跡と矢原の白水遺跡とここ丸山遺跡は牛久の三大遺跡の一つです。土器、埴輪、刀剣等の出土品と住居跡があります。

丸山公園山頂ここ大塚は、弥生縄文時代の遺跡と牛久城と神官職二〇〇年の歴史が有り、山（海拔五一一m）は富士型の為吹き上げ風は山頂では大風です。冬の寒い朝にはキツネがかまどの火に寄って来たそうです。この山の昔物語に境内に仁王様が現れた話や、三〇〇年前この山から金の幣東が埼玉県の向山神社迄飛び、悪政に苦しむ村人を助けた話があります。

## 丸山公園（丸山神社）

私達の住む牛久地区には数え切れない程の伝統的な文化および芸能があります。今回はその八弾です。



(丸山神社の参道)

② 牛久城  
 今から約四八〇年前の足利時代の城です。城の場所は、ここ大塚で、面積は一六〇〇㎡です。西国の武田氏、上杉氏と勢力を争う北条氏が房総半島に攻めて来ました。牛久城主は北条氏にそむき北条方の三谷氏の軍勢数千名により落城しました。牛久城は、小さなお城で武士が二・三人しかいなかったそうです。合戦になれば農民が鎌や鎌をもって戦いました。

県教育委員会  
 中世遺跡目録より

高年齢者部会書記及び広報委員会委員長と活躍された吉田久子さんがご逝去されました。故人は日赤奉仕団牛久支団員としても地域福祉に貢献されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

### 訃報

③ 神明様（丸山神社）  
 文禄三年約四二〇年前、下総国の椎名村で夜な夜な神様が光を発し、光の方向が丸山公園であった、と言う伝説のもと神様がここに鎮座しました。万治二年約三百六〇年前、牛久支配の水野若狭守の命で大きなお宮が完成し、神主と神官や家族がいてにぎやかで神明社と申されました。

市原郡誌引用

立派な大きな神社でしたが、幕末に大風が吹き、お宮が壊れまじ。明治初期に住民一族全員下山しました。お宮の大きさは宮殿横六間・縦三間、拝殿横二間・縦二間余でした。

牛久小と内田小の統合にむけて  
 市原市教育委員会は、児童生徒数の減少により学習活動に支障が生じている状況が進行する中、「市原市学校規模適正化検討委員会」が提出した「市原市における学校規模適正化の基本的な考え」に基づき、加茂地区、南総地区、市東地区の学校規模適正化を進めてきました。昨年度より、「南総地区学校規模適正化協議会」が設置され協議が進められ、「内田小学校と牛久小学校の先行統合を進めること」について承認すること  
 を、全会一致で確認してきました。また、昨年八月二十日には、教育委員会会議において、議決されたことが報告されました。九月より、牛久小・内田小統合計画推進委員会では、各学年が三回の交流を進め、十二月四日には合同持久走記録会を行いました。  
 同じ教室で両校の児童が席を並べ、時間ごとに担任が交互に授業を進めてきました。友達の名前を覚え、互いに呼び合う仲になり、今年四月からの統合を楽しみにしています。牛久小校長 積田兆生



(牛久小・内田小児童の交流風景)

### 編集後記

吉田久子さんのご逝去に伴い、前牛久地区町会長の山本義雄氏が委員長になりました。ご愛読下さる地域の方々に、情報を提供し親しんでいただける広報紙にする所存です。今後、下記メンバーで活動しますので、よろしくお願い致します。

- 委員長 山本 義雄 (前地区町会長)
- 委員 渡邊 賢一 (交通安全協会)
- 委員 加藤 功 (元民生児童委員)
- 委員 中川 正孝 (学校ボランティア)
- 委員 藤田 宜徳 (元町会役員)
- 委員 田中 博 (民生児童委員)
- 委員 三井 泰美 (防犯協会)
- 委員 阿部 康子 (元民生児童委員)
- 委員 田中 信廣 (民生児童委員)



【広報委員会 M・N】

「地域の絆」「みんなの力のつながり」..これが「小域福祉ネットワーク」です